

中央カンテ（谷川岳）

2004年5月22日

参加者 二名 吉田（記）

天候 曇り

1 P 目 松田リード

取り付きらしい所が酷く濡れていたもので、それより5メートルほど下で登る準備を始めた。ザイルを結び終えた頃、凹状を登る佐藤パーティーがやって来た。彼らは、我々の斜め左上に出て、我々が登ってくるまで待機していた。松田さんがリードで彼らの所まで登ってから右にトラバースし、上のフェースへと抜けていった。

2 P 目 吉田リード（以下交互）

しばらくの間は、濡れたフェースを直上した。左手カンテの方向にピンを確認してからは、凹状ルートを離れて、そちらの方向へと向かった。

3 P 目

カンテに出ると、岩は乾いていて急に快適になる。

4 P 目

乾いたカンテを快適に登攀する。左から変形チムニーのルートが合わさるところでピッチを切る。あまりに易しく感じたので「つまらん」などと軽口もでる。

5 P 目

急なチムニーを越えると、傾斜のゆるいフェースとなる。

6 P 目

易しいフェースをしばらく右上し、さらに方向を左に変えて少し登ったところで、ピッチを切る。正面前方には取り残されたと思われるザイルが垂れていた。

7 P 目

松田さんが乗っていた岩が崩壊した。落石が音を立てて落ちていった。垂壁を越えたところで松田さんはピッチを切った。彼は何時ものように、垂壁はA0で越えようとしたらしい。ところが、突然下の方から「松田さんそこはフリーで」という佐藤さんの声が聞こえたので、シュリンゲに触るのを思い直したそうである。

8 P 目

この上のクラックは濡れていて、少しかぶっていた。佐藤さんに、見られていると思うと、インチキも出来ないで、少し緊張する。

垂れていたシュリンゲにランニングを取ってから、次のホールドを探していたら、なんとカラビナを掛けたシュリンゲが下に落ちてしまった。慌ててもう一本かかっていたシュリンゲの強度を確かめてからランニングを取り直した。このクラックを越えてしまうと、後は特に問題となるところはなさそうに思われた。

9 P 目

あまり覚えていない。ルート集でスラブから凹角を登ると紹介されているピッチだと思う。

10 P 目

濡れたフェースを登ると、広いテラスに出た。このテラスには下降用のカラビナがあつたが、そこからだと凄い空中懸垂になりそうなので、さらに上へとザイルを伸ばした。

11 P 目

烏帽子岩の基部まで行くと支点があつたので、そこから懸垂で左のルンゼに降りた。

下降

ルンゼを少しクライムダウンし、さらにブッシュをトラバースして南稜の終了点の上に出た。

コースタイム

6時00分 テント出発、7時00分 登攀開始、11時15分 烏帽子岩の基部、16時00分 テント